

武蔵ヶ丘コミュニティセンター

いきいきコミセン便り

第5号

令和8年3月1日発行

※発行時期の都合上、この号を読まれる時には、年が明けてから月日がかかり経ってしまっていることをご容赦下さい。

新しい年を迎え令和8年が始まりました。

今年、本センターは7月から大規模改修工事が予定されています。そのため自主講座や貸館の利用は6月末までとなります。利用者の方々にはご迷惑をおかけすることになりますが、何卒、ご理解の程宜しくお願いいたします。さて今年度の主催講座も終わったので今号は、講座以外のコミセンに関連することをお伝えします。

早朝のあいさつ運動

by 青少年育成会議

1月9日(金)の早朝は、町長、教育長、校区の小中学校の校長先

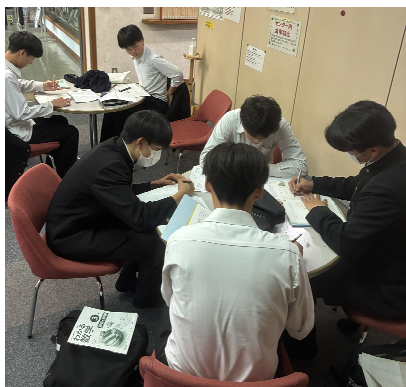


↑上のQRコードを読み込むとカラー版が見られます。

生など町の青少年育成会議の方々がすぐ横の武蔵ヶ丘中学校正門前で挨拶運動に取り組みました。この日の朝の気温はマイナス3℃と厳しい寒さでしたが、両側にズラリと並ばれた会員の方々に元気に挨拶を返す中学生に感心しました。

受験に向け頑張ってます！

本センターには、図書コーナーがあります。小学生や講座生、地域の方が本を借りに来られたり、調べものをされたりする時に利用されています。11月ぐらいから増えてきた利用者が中学3年生。「家に自分の勉強部屋がないので夜まで勉強してもいいですか?」と言って8時ぐらいまで黙々と勉強する中学生もいました。また、別の中学生たちに「受験の日はいつ?」と尋ねると「2週間後に専願の試験を受けます」などと答えてくれ「最後の追い込み、頑張つてー」と言う「ありがとうございます!」と気持ちのよい挨拶を返してくれました。丸テーブルが4台の小さな図書コーナーですが、受験生にとっては、大切な場所になっています。



毎月第3金曜日の「ママの休日」

本センターを利用されている最高齢の方は、たぶん卓球の自主講座で利用されている93歳の方。そして最年少と思われるのが1歳ぐらゐの赤ちゃんたち。本センターでは毎月第3金曜日の午前中、町の子育て支援課の事業である「ママの休日」というイベントが行われています。この事業は、子育て中のママ（パパも）がリフレッシュしたり、子どもと一緒に楽しい時間を過ごしたり、他の子育て家庭と交流したりする場となることを目的に行われているそうです。毎月のイベントは、元気の森ラビット保育園の先生が企画され、毎回内容は変わります。取材した1月は、「オリジナルスプーン作り」。お母さん方は電熱ペンを使い講師の先生から学んだウッドバーニングという手法で我が子のためにスプーンに絵を描かれました。その作業の間、赤ちゃんたちは、保育園の先生と一緒に来られているお父



さんがお世話されていきました。この日は1クール4組の親子が入り、4クール計16組の親子が来場されました。

地域の色々な世代の方々に利用していただくこの機会にはセンターとしても有難いです。月に一度、私も含め職員は可愛くてたまらない赤ちゃんに会えるこの日を楽しみにしています！

コミセン日記 1/28(木)

コミセンには以前からずっと置いてある観葉植物などがあります。夏場は水やりを忘れることもあり枯れかけたこともあったのですが、夜の受付のシルバーの方が週2回かさず水やりをしてくださっているお陰で植物たちも元気になりました。

そして玄関に置いてあるシャコバサボテンも1月中旬ぐらゐから蕾が開きだし綺麗な花を咲かせてくれました。あざやかなピンク色の花が利用者の方々の目を引き新たな会話が広がっています。



武蔵ヶ丘小学校の学校運営協議会の委員として

本センターは、武蔵ヶ丘小学校の校区内にあります。そのこともあり、今年度から武蔵ヶ丘小の学校運営協議会の委員をお願いされました。この学校運営協議会とは、地域の立場から、学校運営に参画し、より良い学校づくりを支えるためのものです。2月17日に今年度最後になる第3回運営協議会に出席してきました。これまで3回の会議以外にも5月の運動会や12月に今年初めて開催された「むしよっこパーティー2025」にも参加してきました。運動会は、子どもたちが中心となって自分たちの手で進める素晴らしいものでした。また、「むしよっこパーティー」は、子どもたちのためにと先生方の手を借りずPTAの実行委員が準備から当日の運営まで全て担って実施されていました。PTA離れが社会問題となっている状況の中で、これだけのことをPTAだけで取り組む実行力に感心させられました。

本センターには、武蔵ヶ丘小の



子どもたちが、「ケガして血がでているので治療して下さい」と何人か来てたり、本やトイレを借りに来たり、落とし物を届けにきてくれたりします。今後も学校との連携を密にし、センターとして地域と共にある学校づくりのお手伝いをするとともに、子どもたちがセンターで学べる機会を作っていきたいと思っています。

「おじゃまします！自主講座⑦」

実践体操編

この講座は、毎週水曜日の10時から12時に開かれ、40歳台から80歳台までの13名の講座生が通われています。この実践体操は歴史があり「体操三井島システム」という鹿児島大学の先生が65年前に開発されたもので現在は、鹿児島から関東にまで教室が広がって1万名以上（熊本県はそのうち約2千名）の方がこの体操を学ばれているそうです。体操自体は1時間余りですが、身体の色々な筋肉をまんべんなく動かすことで、身体がしなやかになったり姿勢も良くなったりす



るそうです。講座生は年齢層も幅広いので、各自、身体と相談しながら無理せずできる範囲で身体を動かされています。帰られる時に話を聴いてみるとは、「終わった後は、身体がすっきりします」「みなさんとおしゃべりするのも楽しみです」と答えて下さいました。先生もとても気さくで楽しい方で、「元気な身体を保ちたい方、是非一度見学に来られて下さい」とおっしゃっていました！

「おじゃまします！自主講座⑧」

菊陽武蔵剣豪太鼓

この講座は、毎週水・金の19時から22時に開かれてい

ます。剣豪太鼓は、1985年に結成され今年ちょうど創立40年の節目の年。これまで全国大会にも何度か出場し、2019年タイで開催された国際民族祭にも日本代表として出演し、今年度も九州大会に出場されたそうです。本センターでの練習が夜間のため、練習自体は見れてませんが、昨年のセンター祭で初めて演奏を間近で見させていただきました。センター祭のトリを務める演奏は、子どもたちの一生懸命さが伝わる、とても素晴らしいものでした。また、センター祭の片づけの際、子ども



もたちが本当に気持ち良く働いてくれたことにも感心させられました。

下の写真は、センターの職員が正月にカーリーナに行った時に撮影したのですが、寒空の下、力強く演奏する姿がとてもカッコ良かったと話していました。2022年には菊陽町のPR大使にも任命され菊陽町の

色々なイベントにも多数出演している菊陽武蔵剣豪太鼓。現在、剣豪太鼓の講座には町外の講座生が多い状況です。是非、菊陽町の子どもたちにもこの素晴らしい伝統を受け継いでいって欲しいと思います。

編集後記

図書コーナーの話と少しかぶりますが、本センターは夜は、夜間受付のシルバーの方に代わります。「中3の子どもたちは帰る時も、窓口に来て『今日は、少し早いですが帰ります。』などといった挨拶をして帰ってくれるんですよ」と嬉しそうに話して下さいます。コミュニケーションの職員は、こんなさやかな利用者とのコミュニケーションに喜びを感じながら日々仕事をしています。

